

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
問題解決の課題を通して自然の事物現象についてのイメージや素朴な概念などを、既習の内容や生活経験観察実験などの結果から導き出した結論と意味付けたり、関係付けたりしてより妥当性の高いものにし、より深く理解すること。	自らの学習を振り返り、意味付けをしたり、自然の事物・現象や日常生活を見直したり、問題を見出したりして、表現すること。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	<p>ア 金属が通電することに対する理解が低い。金属と鉄の違いが把握できていないことが考えられる。身の回りの金属について電気を通すものと磁石に引き付けられるものが十分理解できていない。</p> <p>イ 学習を通して得た知識を活用して理解を深めることが十分できていない。</p>	<p>ア 金属に様々なものがあり、その中の一つが鉄であるということの理解を図る。 自然の事物、現象等知識を関係付けたり知識を相互に関係付けたりして、理解を深める。</p> <p>イ 児童が既習の内容から目的を設定し、その目的を達成するために、ものづくりを行い、その活動を振り返り、既習の内容を生かしながらものづくりができたことを自覚できるようにする。</p>	<p>ア 年間を通して</p> <p>イ 年間を通して</p>	
第4学年	<p>ア 空気、水及び金属の性質、電流の働きについての知識が十分に身に付いていない。</p> <p>イ 学習した内容を他の学習や生活と関係付けるなど知識を概念的に十分理解できていない。</p>	<p>ア 学習した内容を言葉や図に表現したり、言葉や図から装置を再構成したりするなど理解を深められるようにする。</p> <p>イ 学習した内容を他の学習や生活と関係付けるために具体的な場面を生活の中から探し、関連付けていく。</p>	<p>ア 年間を通して</p> <p>イ 年間を通して</p>	
第5学年	<p>ア 顕微鏡に限らず、各種実験道具の名称や一つ一つの操作の意味が確実に理解できていない。</p> <p>イ 学習問題を解決するための実験の方法を考えることが苦手である。</p>	<p>ア 顕微鏡の適切な操作方法や手順をただ覚えるだけでなく、顕微鏡の各部分の名称も併せて理解させる。日常的に顕微鏡で観察させる機会を増やすなど環境をつくる。</p> <p>イ 実験方法を考えるために、どのようにすれば分かるのかを考えたり、説明したりする活動の充実を図る。</p>	<p>ア 年間を通して</p> <p>イ 年間を通して</p>	

第6学年	<p>ア 実験の過程や得られた結果を、適切な方法を選択して記録することが苦手である。</p> <p>イ 問題に対するまとめを導き出すための観察、実験の方法が適切であったか検討し、表現することに課題がある。</p>	<p>ア 結果を共有する場面で、より良い記録方法について考え、実際に表現していき、その記録方法の妥当性について考える場面を設定する。</p> <p>イ 計画した実験方法が予想したことを確かめられるものになっているか検討したり、改善したりする活動を、解決方法を発想する場面や実験の結果や方法を振り返る場面などの学習過程に取り入れる。</p>	<p>ア 年間を通して</p> <p>イ 年間を通して</p>	
■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について		■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について		
<p>【個別最適な学び】</p> <p>○指導の個別化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習動画、検索機能、などから自分に合った方法を選び理解を深める。 ・画像提示機能や情報共有ツールなどを使い、自分に合った方法で考えたことの発表や共有をすることで学んだ事の理解を深める。 <p>○学習の個性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で設定した課題について、検索機能やドリルアプリを活用してものの見方を深めたり広げたりする。 <p>【協働的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを共有機能、スライド機能、共働編集機能、カメラ機能、プレゼンテーション機能を活用して交流し、よりよい考えを生み出す。【3～6年 重点】 		<p>【3年～6年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の後に何が分かったのか、何が身に付いたのか、自分の考えに変化があったのか、他教科や日常生活とつながりがあるかなど、具体的な視点を与えて振り返りをさせ、今後の学習や日常生活に生かす力を高められるようにする。 ・問題解決の過程を繰り返し行い、児童が見通しをもって学習できるようにする。 		